

地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター 第三期中期目標期間

(H30~R4) 業務実績報告書



目次(自己評価一覧)

内容・評価項目	自己評価	頁
東京都健康長寿医療センターの概要		4
病院部門の主な成果		5
血管病医療	A	5
高齢者がん医療	A	5
認知症医療	A	5
生活機能の維持・回復のための医療	A	5
医療の質の確保・向上	B	5
救急医療	A	6
地域医療の推進	A	6
医療安全対策の徹底	A	6
患者中心の医療の実践・患者サービスの向上	A	6

目次(自己評価一覧)

内容・評価項目	自己評価	頁
研究部門の主な成果		7
高齢者に特有な疾患と老年症候群を克服するための研究	S	7
高齢者の地域での生活を支える研究	A	7
老年学研究におけるリーダーシップの発揮	A	8
研究推進のための基盤強化と成果の還元	S	8
医療・研究が一体となった取組の主な成果	S	9
経営部門の主な成果		11
高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成	A	11
地方独立行政法人の特性を活かした業務改善・効率化	A	11
適正な法人運営を行うための体制強化	B	11
収入確保	A	11
コスト管理の体制強化	A	11
法人運営におけるリスク管理の強化	A	11

東京都健康長寿医療センターの概要



医療・介護などを含めた高齢者を取り巻く情勢

- ・ 2030年に都民の約4人に1人が高齢者になると予測されるなど、高齢化が急速な進展
- ・ 複数疾患やサルコペニア・フレイルなどの老年症候群や生活機能障害を有する高齢者の増加
- ・ 臓器機能の維持・回復を目指した「治す医療」から生活機能の維持・回復も目指した「治し支える医療」へ変化

第三期中期目標

- ・ 重点医療の一層の充実、高齢者の特性に配慮した医療の提供
- ・ 関係機関等との連携による切れ目のない地域医療の体制確保
- ・ 老年学専門の研究所として、サルコペニア・フレイル・認知症などの研究を重点的に推進
- ・ 医療と研究が一体となった取組の推進、知見やノウハウの社会還元
- ・ 業務運営の改善、収入増、コスト管理などの一層の強化

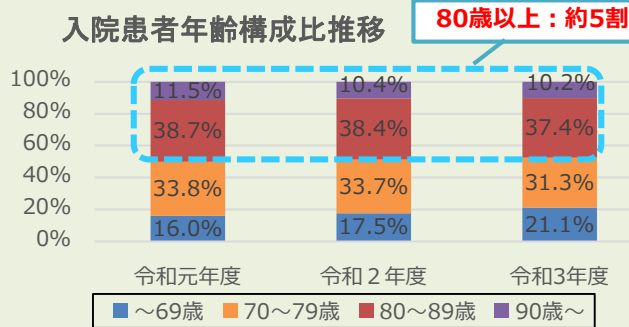
第三期中期計画≡第三期のミッション

- ・ 三つの重点医療（血管病・高齢者がん・認知症）について、高齢者の特性に配慮した低侵襲な医療の提供
- ・ 多職種が連携した生活機能の維持・向上を目指した支援を実施し、これらの取組を「高齢者医療モデル」として確立・普及
- ・ 重点医療や老年症候群に関する研究、高齢者の社会参加の促進やフレイル・認知症などを抱える高齢者の生活を支えるための研究を推進
- ・ 公的研究機関としての役割を踏まえ、研究内容及び研究成果の公表、行政施策への提言を積極的に実施
- ・ 経営状況の分析・管理に取り組むとともに、収入確保・費用削減を実施

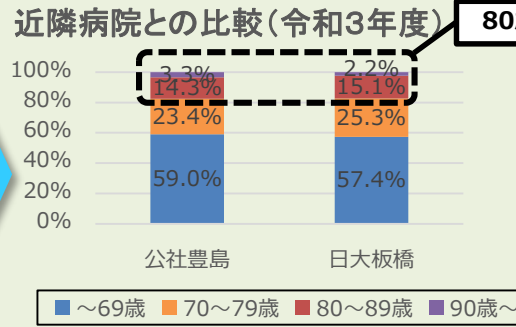
計画として具体化

センターの特長

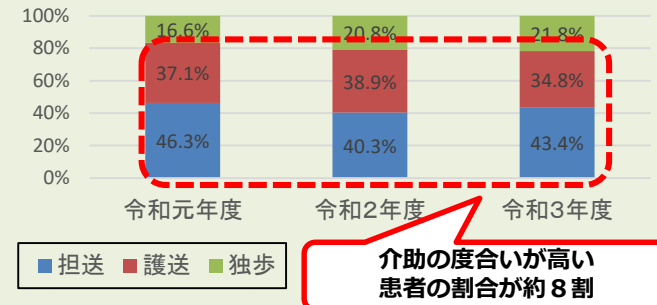
入院患者年齢構成比推移



近隣病院との比較(令和3年度)



担送・護送・独歩の割合



介助の度合いが高い患者の割合が約8割

三大重点医療を中心として適切に医療を提供するとともに、高齢者の健康長寿と生活の質の向上を目指す研究を実施することで、都の高齢者医療及び研究の拠点としての取組を推進

病院部門の主な成果

重点医療等提供体制

【血管病医療】 **評価A** (見込評価：A)

- ・ハートチームを中心に、ハイブリッド手術室を活用したTAVIやステント内挿術、脳神経外科及び血管外科による血管内治療、循環器内科によるPCIやカテーテルアブレーション等、高齢者の身体的負担に配慮した低侵襲な医療提供を積極的に施行
- ・急性大動脈スーパーネットワーク、CCUネットワーク、東京都脳卒中救急搬送体制に参画し、コロナ禍においても急性期血管病患者の受け入れを積極的に実施

【高齢者がん医療】 **評価A** (見込評価：A)

- ・腹腔鏡、胸腔鏡及び内視鏡(ESD等)を用いた低侵襲な手術、肝胆膵領域の高難度手術を積極的に施行
- ・悪性腫瘍に対するPET検査やMRI検査、内視鏡及び気管支鏡検査による早期発見に努めるとともに、気管支鏡検査におけるROSE(rapid on-site evaluation)や仮想気管支鏡画像を用い、正確かつ低侵襲な検査を施行
- ・化学療法の実施や、最新の放射線治療器の導入等高齢者におけるがん治療に対し、集学的治療を推進
- ・多職種からなる緩和ケアチームが、患者とその家族の意向を適切に把握し、病気の進行に伴う様々な身体的・精神的苦痛に対し、それらを和らげる治療・ケアを実施

【認知症医療】 **評価A** (見込評価：A)

- ・病院と研究所とが一体となり、令和2年度より認知症未来社会創造センター(IRIDE)として医療と研究とを統合した取組を実施
- ・もの忘れ外来において、精神科・脳神経内科・研究所医師が共同で診察を行い、認知症の精査・原因診断と治療を導入するとともに、いきいき外来で軽度認知障害(MCI)症例を中心に、検査や生活指導など実施
- ・入院患者に対してDASC-21(認知症アセスメントシート)に基づく評価を行うとともに、認知症患者に対するケア体制を整備

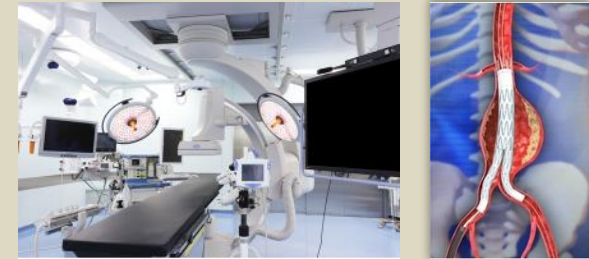
【生活機能の維持・回復のための医療】 **評価A** (見込評価：A)

- ・フレイル外来を中心にフレイルの評価、フレイルに対する指導を実施するとともに、高齢者総合機能評価(CGA)に基づき、入院時に患者のADL、認知機能、心理状態、栄養、薬剤、社会環境などについて総合的に評価を行い、入院時から退院を視野に入れた治療の提供と適切な退院支援を実施
- ・人工関節外来・脊椎外来、骨粗鬆症外来にて検査・治療を行い、高齢者特有の整形外科的疾患に対応
- ・入院患者の状態に応じて、脳血管、運動器、心大血管などの疾患別リハビリテーションを早期に実施
- ・認知症・フレイルの危険因子となる高齢者糖尿病患者が増加しており、重点医療としての重要性を明らかにした
- ・糖尿病看護認定看護師による糖尿病看護外来を毎日実施し、フットケアやインスリン注射導入等のケアを提供

【医療の質の確保・向上】 **評価B** (見込評価：B)

- ・心不全患者に対するACPの実践、エンドオブライフケア委員会におけるリンクナースの育成等、ACPに対する理解や聞き取り技術向上を推進
- ・医師事務作業補助者の積極的な採用及び業務範囲の拡大や臨床工学技士の診療補助の実施により、医師のタスクシフトを推進することで、医師が患者と向き合い治療に専念できる環境を整備

高度な血管病医療の提供 (ハイブリッド手術室、ステントグラフト治療)



低侵襲ながん医療 (EUS-FNA)



病院部門の主な成果

地域医療

【救急医療】 **評価A** (見込評価：A)

- ICUやSCUを活用し、急性大動脈スーパーネットワーク、CCUネットワーク、東京都脳卒中救急搬送体制からの、救急症例を積極的に受け入れ、コロナ禍においても急性期血管病患者を積極的に受け入れ
- 「新型コロナ疑い救急患者の東京ルール」に基づき、新型コロナ疑い救急患者を積極的に受け入れる二次医療機関（新型コロナ疑い救急医療機関）として、軽症から重症における多くの新型コロナ患者の受け入れを実施
- 病院救急車を積極的に活用して地域連携強化を図るため、車両の整備や救急救命士採用の準備等の環境整備

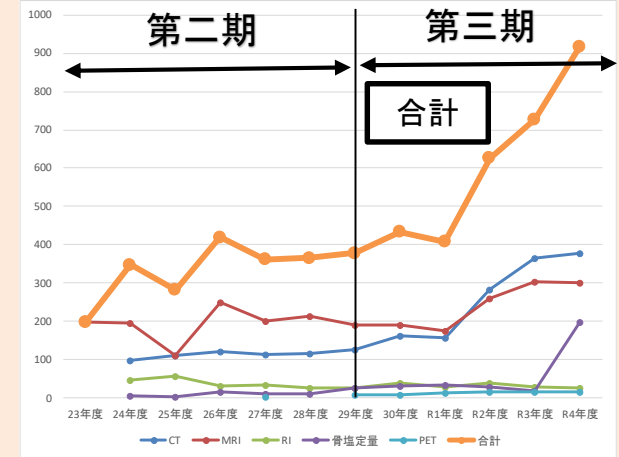
【地域連携の推進】 **評価A** (見込評価：A)

- 地域包括ケア病棟を積極的に活用し、急性期治療から病状が安定した患者の自宅や介護施設等への復帰に向けた治療、リハビリ等退院支援を実施
- かかりつけ医紹介窓口を設置するなど医療機関・介護施設等からの紹介受入の強化、治療後の紹介元医療機関等への返送、地域医療機関等への逆紹介を推進
- 高齢診療科外来を開設し、老年症候群に対する精査加療、薬剤調整、フレイル予防対策を実施
- 地域医療連携システム（C@RNAシステム）を通じた連携医からの放射線画像診断（CT、MRI、PET）、超音波検査の依頼を受け入れる体制を強化するとともに、かかりつけ医からの初診WEB予約を開始

導入した病院救急車



連携検査数



医療安全

【医療安全対策の徹底】 **評価A** (見込評価：A)

- 感染防止対策については、感染防止対策（ICT）チームによる病棟ラウンドを実施し、院内感染の情報収集や分析を行うとともに、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）を中心に薬剤耐性菌の抑制と患者予後の改善に尽力
- 入院時に転倒転落のリスクを評価し、対策を立案するとともに、患者状態が変化した時や転倒発生時などにも状態評価を行うことで、高齢患者が多いセンターにおいて全国の転倒転落率と比較して大幅に少ない状態を維持
- 新型コロナウイルス感染症に対して、週1回のコロナ会議による情報収集・分析を行い、患者・職員に加えて、面会者の感染防止対策を徹底することにより、積極的な新型コロナウイルス感染患者の受け入れを実現

患者サービス

【患者中心の医療の実践・患者サービスの向上】 **評価A** (見込評価：A)

- コロナ禍により入院面会が禁止となる中、研究所協力の下、PCR検査・無料TOBIRA抗原検査を積極的に実施し、必要不可欠な症例に対し最大限の面会機会を確保するとともに、タブレットを用いたオンライン面会も併せて実施
- 患者が十分な情報に基づき、様々な選択ができるよう、12の診療科においてセカンドオピニオン外来を実施するとともに、未破裂脳動脈瘤に対するオンライン受診勧奨を開始し、患者サービスを拡大

面会イメージ

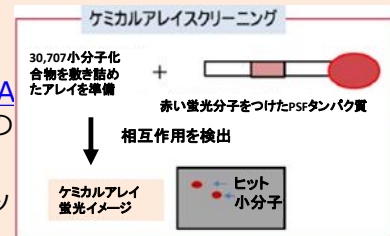


研究部門の主な成果

高齢者研究

【高齢者に特有な疾患と老年症候群を克服するための研究】 **評価S** (見込評価：S)

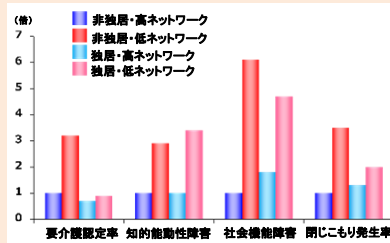
- 増殖因子受容体のFGFR4のシグナル伝達を阻害することで、腫がん細胞の老化誘導を行い老化細胞死誘導薬との併用で、**がんの老化誘導療法という新たな治療法を発見**
- 認知症発症に関わる**リン酸化タウの超高感度定量法を開発**
- 高齢者の健康長寿を損ねる前立腺がんや乳がん等において、**ホルモンシグナルと治療抵抗性の新しいメカニズムをRNA制御機構、転写制御機構並びに相分離機構をもとに解明**し、臨床材料の活用によるそれらを標的とした診断・治療への応用の方向性を示した(図1)
- 薬剤耐性前立腺がんの分泌するエクソソームのプロテオーム解析により、**薬剤耐性メカニズムに関する生物学的ネットワークを明らかにし、薬剤耐性を抑制するためのターゲット分子の同定に成功**
- 新規放射性薬剤として世界初の18F標識血液脳関門薬剤排泄ポンプイメーシング剤の**臨床応用が可能であることを確認**
- 咀嚼により大脳皮質の血流量が増加し、認知機能の向上などの作用を果たすこと**、また、**咀嚼をイメージするだけでも同様の効果が得られることを示した**
- 先天性筋ジストロフィー症の原因遺伝子FKRPによる糖鎖合成機構を解明し、筋ジストロフィー症の新たな発症メカニズムを明らかにした(図2)**



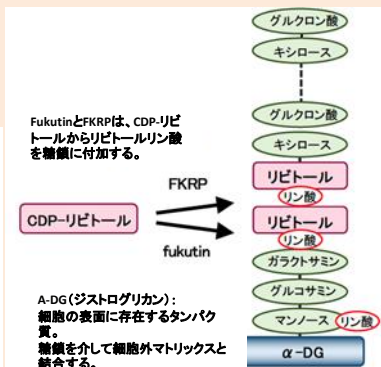
【図1_RNA結合タンパク質PSFに作用する小分子の網羅的な同定】

【高齢者の地域での生活を支える研究】 **評価A** (見込評価：A)

- 介護予防無関心層への普及を図るため、IoTの活用を行うとともに、歩行速度を中心とした基盤研究を行い、日常生活歩行速度を定義することで、**フレイルの予兆につながる指標として確立し、ビックデータを元にした標準値等を示した**
- レセプトデータやDPC・DASC突合データを用いて医療・介護システムを分析し、**東京都の75歳以上のレセプトデータから多疾患併存と多剤処方の実態を明らかにした**ことに加え、多疾患併存に注目した健康指標を開発しており、**北海道の75歳以上の者(46.7万人)において、国保データベースで自動集計された24疾患の疾患数が多いと要介護認定・死亡リスクが高まることを明らかにした**
- 大規模フィールド(高島平、千代田区)を開拓、管理、維持し、**住民や行政との信頼関係の醸成、評価・検証等を行い、認知症支援体制を構築**
- 全国高齢者パネル調査の参加者のうち、訪問調査に協力した65歳以上の高齢者2,206名のデータを解析し、**地域在住日本人高齢者のフレイル割合を明らかにした**
- 一人暮らしによる健康リスクは、人のつながりにより緩和されることを明らかにした(図3)
- スマートウォッチ等のデジタル機器を用いた健康づくりに関する研究プロジェクト**を立ち上げ、スマートウォッチ等のウェアラブルデバイスを地域在住高齢者に配布し、活動量や睡眠状態などのデータ収集を進めるとともに、アプリケーションの開発に着手(P.10参照)
- SPDCAサイクルに沿ったフレイル予防のための大田区での介入研究の効果評価を実施し、2年間で、大田区内の対照15地区と比較して、介入3地区では取組の認知度が有意に高く、2地区で集団レベルの行動変容(歩行時間、食品摂取多様性の向上等)がみられ、同区の介護費抑制に寄与した可能性を示唆(図4)**。また、SPDCAサイクルの活用について厚労省委託の全国研修を実施

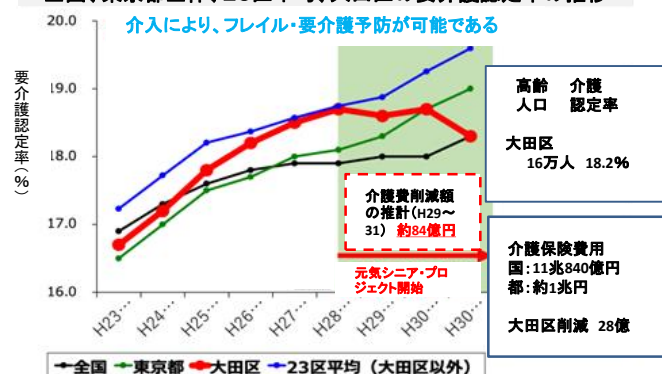


【図3_居住形態・社会的ネットワークと健康状態の悪化リスク】



【図2_筋ジストロフィー症に関わる糖鎖の構造とfukutin、FKRPの働き】

全国、東京都全体、23区平均、大田区の要介護認定率の推移



【図4_全国、東京都全体、23区平均、大田区の要介護認定率の推移】

研究部門の主な成果

高齢者研究

【老年学研究におけるリーダーシップの発揮】 **評価A**（見込評価：A）

- ・ 高齢者ブレインバンク生前登録例のPET診断を積極的に実施し、臨床診断情報の充実に努めるとともに、剖検例と生前のPET画像の対比を積極的に行い、[PET診断の病理学的根拠を明らかとする研究成果を発信](#)
- ・ 認知症疾患医療センターの質の向上に関する一連の研究成果について、[わが国の認知症疾患医療センター運営事業の実施要綱に反映](#)
- ・ セミナーの開催、学会雑誌等の編集など、老年医学に関連した様々な学術会議の運営を中心的に関与
- ・ [国内外の研究機関、企業及び自治体との産官学連携](#)について、老年医学における基礎・臨床・社会実装化に向けた研究開発を積極的に推進（「認知症未来社会創造センター」、「AIホスピタルによる高度診断・治療システム」などの新規プロジェクトを開始）

【研究推進のための基盤強化と成果の還元】 **評価S**（見込評価：S）

- ・ クラウド型特許データベースを活用した知財管理業務委託を開始し、知的財産活動を一層推進
- ・ [治験審査委員会（IRB）](#)、[認定臨床研究審査委員会（CRB）](#)などの委員会を適切に運営することにより、[研究の質と安全性を確保](#)
- ・ ホームページやSNSを活用し、[研究所の活動や研究内容及び成果を都民、研究者、マスコミ関係者などに広く普及させるとともに](#)、外部機関との共同研究等も視野に入れ、[研究成果を積極的に発信](#)
- ・ [科学研究費助成事業](#)など、競争的研究資金への積極的な応募を行ったことにより、[科学研究費助成事業の新規採択率は最も高い年度で47.6 %となり、全国4位となった](#)

病院・研究が一体となった取組の主な成果

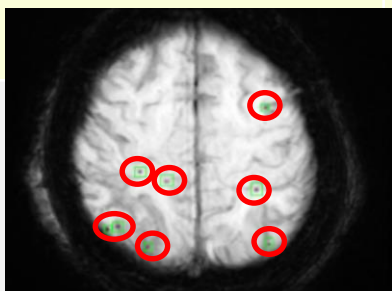


医療と研究

【医療と研究が一体となった取組の推進】 **評価S** (見込評価：S)

《認知症未来社会創造センター (IRIDE) 》

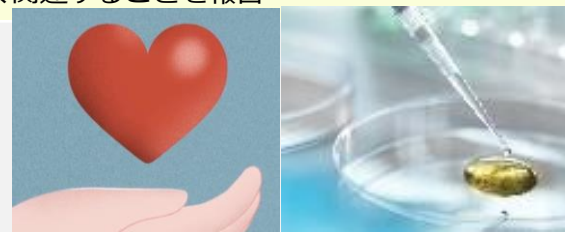
チーム	目標	第三期中期計画期間実績
①オープンデータベースチーム	センターの保有する各種データを統合し、オープンに活用可能なDBを構築	・DBへの過去データ格納推進及びDBの研究・解析利用開始、外部研究機関・企業との共同研究開始
②メディカルゲノム・バイオマーカーチーム	生体試料の保管・提供及びゲノム解析、低コスト・低侵襲な体液バイオマーカーの開発	・統合バイオバンクの整備は完了、前向き生体試料の蓄積を継続 ・既存のバイオマーカー及び 新規のバイオマーカー測定系を立ち上げ、企業との共同研究を開始
③AI診断システムチーム	AIを活用した画像診断システム及び自動会話プログラムの開発	・MRI診断支援システムによる微小出血診断の実証検証の実施 ・チャットボットのプロトタイプ臨床トライアル及び課題抽出
④コホート研究統合活用チーム	地域コホート研究データの統合活用及び認知症リスクチャートの作成	認知機能の変化、要介護認知症をアウトカムとした統合データの作成・分析を行い、 認知症の危険因子に関する論文を発表
⑤認知症疾患医療センター	認知症疾患医療センターにおける質の高い診断と診断後支援、臨床データの収集、データベース構築、臨床研究、地域における認知症専門職の教育の推進	地域において認知症に対して進行予防から地域生活の維持まで必要となる医療を提供できる機能・体制を構築
⑥認知症支援推進センター	研究成果を都内の認知症疾患医療センターおよび認知症支援に係る保健・医療・福祉部門に還元。人材育成等を通して質の高い総合的な認知症支援体制を都内全域に普及	・認知症支援に関わる医療専門職等の認知症対応力向上のための取り組みを推進 ・いわゆるごみ屋敷症候群は、一人暮らしの高齢者が、認知症が進行し身体機能が衰えてきたときに適切な支援が得られないことと深く関連することを報告



【微小出血と考えられる箇所を表した画像】



【チャットボット】



【TOKYOメディカルバイオバンク】

病院・研究が一体となった取組の主な成果

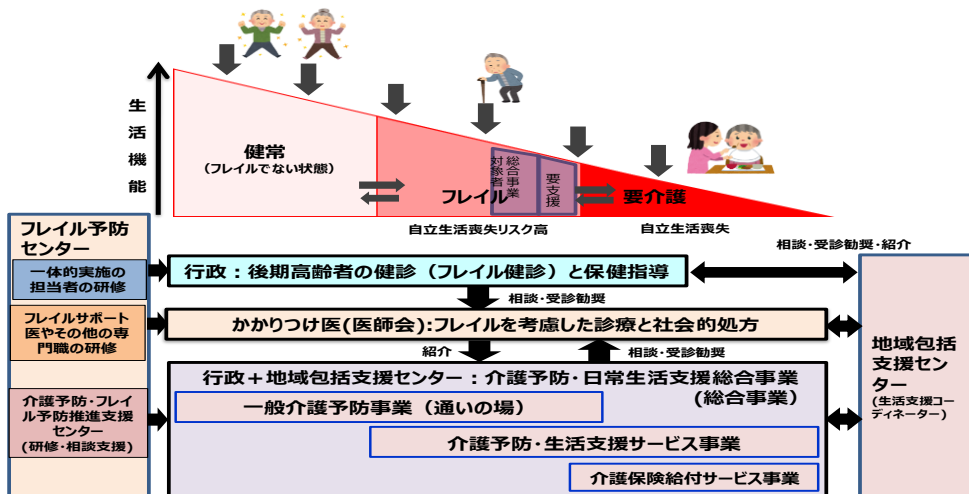


医療と研究

《フレイル予防センター》

主な項目	概要	第三期中期計画期間実績
フレイル診療ネットワーク構築とフレイル外来の機能強化	フレイルをきたす全ての診療科が連携するとともに、フレイル外来では連携してフレイルの評価・対策を強化	・フレイル発症の誘因となる急性心不全、脳卒中、各種外科手術などにおいて、各診療科の急性疾患治療後にフレイル発症を予防するための早期介入を実施する院内フレイル診療ネットワークを構築
フレイルサポート医・フレイルサポートコメディカルの育成	医師会と連携し、地域におけるフレイル対策をリードする医師を育成するとともに、フレイルに対する看護・栄養指導の質の向上を図るため、フレイルサポートコメディカル育成も併せて実施	・東京都医師会を始め、他地域の医師会とも連携を取り、フレイルサポート医研修会を開催 ・フレイルサポート栄養士の育成を進めるとともに、フレイルサポート看護師育成を準備
地域との連携	自治体や医師会と連携し、介護予防・フレイル予防の取組を支援	・保健事業と介護予防事業を一体化した取組が実施できるよう支援 ・東京都介護予防・フレイル予防推進支援センターにおける取組として、区市町村・地域包括支援センター職員等に対する研修などを実施

フレイル予防センターが目指す包括的フレイル予防戦略



《スマートウォッチ等デジタル機器活用事業》

- ・スマートウォッチ事業を行うにあたり、新たに調査対象とした千代田区と包括連携協定を締結
- ・使用するスマートウォッチ等ウェアラブルデバイスの妥当性を検証し、機器を選定・購入
- ・地域在住高齢者（板橋区・千代田区）及び当センターフレイル外来通院患者等約1,150名に対し、ウェアラブルデバイス（スマートウォッチ・歩行能力計）を配布し活動量や睡眠状態、脈拍、会話時間等のデータを収集中
- ・対象者へのフィードバックとして、スマートウォッチ等と連携したアプリケーションの開発に着手

TDK Silmee™ W22



【スマートウォッチ】

1. 消費カロリー（活動量、歩数）
2. 睡眠時間・状態
3. 脈拍数（PPI:脈波間隔）
4. 会話時間
5. 皮膚温度
6. 紫外線量



【アンクルバンド型歩行速度の歩行能力計】



経営部門の主な成果

人材育成

【高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成】 **評価A** (見込評価：A)

「フレイルサポート看護師」養成研修 (院内)

- ・ 「東京都健康長寿医療研修センター」を新設し、各部門が実施する研修・実習の一元管理により、対外的な発信力を強化
- ・ 全国の医学生・研修医を対象とした「[高齢医学セミナー](#)」の開催や研修プログラムの見直しなど新専門医制度に適切に対応することで、今後の高齢者医療・研究を担う人材の積極的な受入れ及び育成を実施
- ・ 全国で初めて、センター内全看護師を対象とし、「[フレイルサポート看護師](#)」養成に向けた院内研修を実施し、[地域・全国への展開も準備](#)
- ・ 連携大学協定に基づき、連携大学院、他大学の修士・博士課程の学生を受入れ、若手老年学・老年医学研究者の育成に貢献



業務運営

【地方独立行政法人の特性を活かした業務改善・効率化】 **評価A** (見込評価：A)

- ・ 経営戦略会議等の各種会議で迅速かつ十分な議論を行い、平均在院日数の適正化や病床利用率の向上、外部研究員の受入れ等の様々な検討や取組を実施
- ・ [新型コロナへの対応として、経営幹部や現場の責任者を集めた会議体を組織](#)し、必要な機器の購入や体制の整備等について迅速に検討、決定
- ・ [優秀な人材を、将来の管理職候補者として任用することができる課長代理級職\(事務職、MSW\)の昇任選考制度を整備](#)

【適正な法人運営を行うための体制強化】 **評価B** (見込評価：B)

- ・ [保険指導の専門家を雇用し、適切な保険請求に向けた改善](#)を継続して実施
- ・ 全職員皆のコンプライアンス研修の実施やコンプライアンス推進月間の自己点検などにより、[センター職員としてのコンプライアンス\(法令遵守\)を徹底](#)
- ・ 研究費使用に係るマニュアルを毎年度見直すとともに、モニタリング及びリスクアプローチ監査、研究不正防止研修会や研究倫理教育を実施し、[不正防止に対する意識の浸透とルールを徹底](#)
- ・ 平成30年度の適時調査、個別指導における指摘事項を踏まえ、[専門人材を登用し、医療者への院内研修の強化や担当職員の育成を通じて](#)、診療部門に対する指導体制を構築

財務改善

【収入確保】 **評価A** (見込評価：A)

- ・ [C@RNAシステムを利用した初診web予約の積極的な活用](#)を行い、紹介患者数、紹介率の向上に尽力し、収益確保につなげた
- ・ 文部科学省や厚生労働省などの競争的資金への応募や共同研究・受託研究を推進し、[外部研究資金の積極的な獲得に努め、令和2年度以降、年間10億円超](#)
- ・ [新型コロナに関連する補助金の積極的な確保・活用](#)を行い、院内の新型コロナ診療体制を整備

【コスト管理の体制強化】 **評価A** (見込評価：A)

- ・ 病院部門の診療科別原価計算結果を活用し、計算結果については、病院部門ヒアリング等で活用することで、コスト管理や収益性確保の意識向上を図った
- ・ コスト削減に向けて、[大型の委託契約について業務内容を見直す](#)とともに、ベンチマークシステムを活用した効果的な価格交渉等により、[医薬品費及び診療材料費についても削減](#)を実施

法人運営

【法人運営におけるリスク管理の強化】 **評価A** (見込評価：A)

- ・ 二次保健医療圏(区西北部)における災害拠点病院として、事業継続計画(BCP)にもとづく訓練と備蓄資器材の適正な維持管理を実施
- ・ [新型コロナウィルス感染症入院重点医療機関として患者の積極的な受け入れ](#)を行うとともに、宿泊療養施設やワクチン大規模接種会場の運営に当たり、センターの医師、看護師、薬剤師を派遣するなど、[東京都と連携した各種取組を実施](#)
- ・ 情報セキュリティに対する職員の意識向上と管理方法の徹底を図るため、[情報セキュリティ研修及び個人情報保護研修を実施](#)

大規模災害訓練

